



発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 高橋浩二

〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151

ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

生活の質

歯科補綴科・科長 馬場 一美

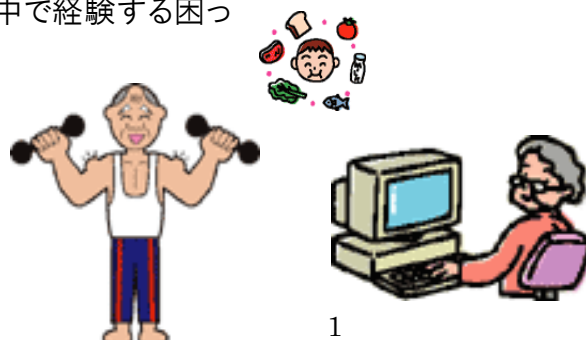
私が 20 数年前に歯学部の学生として補綴科（入れ歯やブリッジを専門とする診療科）で臨床教育を受けていた頃に、教官からよく言われたことがあります。それは、“実際に入れ歯を使ってみないと本当に患者さんのことは理解できないよ”ということです。もちろん、実際に自分の歯を抜いて入れ歯をつくることはできませんので、患者さんの視線で病に対峙しなさいということです。

最近、新聞・テレビ等で生活の質（Quality of Life; QOL）という言葉をよく見かけます。医療の現場では、「QOL の向上を目指す」であるとか「QOL が損なわれる」などのように使われています。QOL については、大まかな意味は理解されているようですが、辞書をひもとくと人々の生活を物質的な面から量的にのみとらえるのではなく、精神的な豊かさや満足度も含めて、質的にとらえる考え方。医療や福祉の分野で重視されている。」と定義されています。近年、医療の進歩に伴い国民の寿命が延び、医療の目的が長くなった人生をより豊かに過ごせるようにすることへと変化してきました。そこで、患者中心型の医療評価（患者さんの立場からの治療評価）の指標として QOL が頻繁に使用されるようになりました。QOL は患者さんが日常生活の中で経験する困っ

た出来事（日常困りごとと呼ばれます）がどれだけあるかで評価されます。つまり、困りごとが少ないと QOL が良好であると判断されます。最新の QOL 調査研究により歯科的な疾患が驚くほど多岐にわたって患者さんの QOL を損なっていることが明らかにされました。



最高の技術を駆使して最善の医療を提供することが大学病院の責務であることは、申し上げるまでもありませんが、「病を診て人を診ず」では最善の医療とは言えません。私たちの診療科（補綴歯科）は歯の欠損という QOL と非常に関わりの強い分野を専門としております。冒頭の話にもどりますが、私どもは来院される患者の皆様方の視線でそれぞれの方が抱える困りごとを理解し、それを解決して行くことを大きな責務として、診療科を運営しております。その結果として皆様方の生活の質の向上に少しでも役立てれば幸いです。



歯科補綴科紹介

歯科補綴科を担当する当教室は、2004年の機構改革により、冠橋義歯学教室(歯に被せる冠や差し歯、固定性のブリッジの専門)と有床義歯学教室(部分的な入れ歯や総入れ歯のような取り外しのできる入れ歯が専門)が統合し、歯科補綴学教室となりました。全国に29の歯学部、歯科大学がありますが、冠橋義歯と有床義歯を含めて歯科補綴の全てを専門とする唯一の教室です。2007年10月からは、前主任教授の川和忠治が定年を迎え、新たに主任教授として東京医科歯科大学より馬場一美が着任し現在に至ります。

当科では、歯に被せる冠から総入れ歯までの補綴歯科のみならず、現在急速に普及しつつあるインプラントによる補綴や審美補綴および顎関節症・顎機能障害を有する患者様の治療を行っており、顎関節症科には古屋教授が科長として、また、インプラント科においては、尾関准教授をはじめ5名の医局員が兼務しています。

歯を失うことにより、咀嚼、発音および審美性(見た目)など日常生活の中で非常に大切な機能に障害が生じ、著しく生活の質(QoL)が低下します。当科ではこのような患者様のQoLの向上とその維持のために、専門外来として質の高い治療を提供するとともに、補綴治療によるQoLの評価を定量化し、患者様個々にとっての最適な治療法の選択、装着された補綴装置を長期に維持するために障害となる歯ぎしりなど習癖の正確な診断や治療法の開発、インプラント治療の新しい展開などについて研究を行っています。

また、教育機関として、学生教育の役割を明確に分担して教育の効率化を図り、若手医局員や学生の臨床教育のためにグループ制の診療体制を導入するとともに、治療技術の向上をめざして卒後研修システムを構築し、毎週2日、診療終了後にスキルアップ講習を行っています。

医局長 菅沼 岳史



顎関節症科紹介



顎関節症科は、平成16年9月に本病院に開設され、今日まで3年8ヶ月経過しました。顎関節症の患者さんは増加傾向にあり、開設当初から、大盛況で、毎日、新患や多くの再診の患者さんを診療しております。

そもそも顎関節症とはどんな病気でしょうか。最近、マスコミやインターネットで多くの情報が発信されていますのでご存知のことと思いますが、以下に顎関節症の主な症状を挙げます。

1. あごを動かすと音がする
2. あごを動かすと痛い
3. 口を大きく開けることができない

もし、貴方が上記のような症状を自覚しているとしたら、あなたは顎関節症かもしれません。顎関節症は「顎を動かす筋肉」や「顎の関節」になんらかの異常がおきたために生ずる疾患です。このような場合は、まず早い時期に当科へご相談されることをお勧めします。

顎関節症の原因は複雑ですが、「上下の歯を何時も接触させている癖」が悪影響を及ぼしますので、ご注意ください。

また、当科では、昨年度から「スポーツ・マウスガード」の製作も始めております。

現在、スポーツ・マウスガードはコンタクト・スポーツ(ラグビー、フットボールなど)において着用が義務化されています。スポーツ・マウスガードは市販された物もありますが、個人個人の歯に合ったものを使用した方が、様々な点で優れています。

顎関節症の治療で用いられるマウスピースに似ているので、その治療法に慣れている当科専門スタッフが提供するものは装着感や使用感に優れていることを確信しています。

なお、スポーツ・マウスガードの料金は自費となりますので、顎関節症科にてお問い合わせください。



スタッフ: 古屋良一教授、片岡竜太准教授、船登雅彦講師、阿部有吾医員

羽毛田匡兼任講師、渡邊友希兼任講師



中央技工室紹介

中央技工室は歯科病院の3階にあります。現在技工士17名《矯正専門1名》、受付2名、新東京技工士学校の専攻生5名の構成です。中央技工室は、歯科病院開院と同時に設置され31年になりますが、当時と今では技工技術の進歩は計知れないものがあります。

技工室は歯科病院各科からの依頼を受けて技工物を製作しております。多い時は1日100ケース以上の印象がきて、その印象に当番が石膏を注ぎます。印象が多い時、当番は自分の仕事が出来ないくらいです。

最近、インプラントの技工が非常に増え、常時、技工士全員が数ケース手元に持っています。インプラントの技工は高度な技術を要するので、我々技工士にもより高度な技術が必要とされています。

平成9年に新東京歯科技工士学校に専攻科が設置され、その専攻生を中央技工室で指導することになりました。期間は1年間で、専攻生数は5～8名です。最初は我々にも戸惑いがありましたが、色々と試行錯誤しながら、現在はマンツーマンという形で専攻生を指導しています。その専攻科も今年で12年になり、卒業生60数名は国内外で活躍しています。

それから歯学部5年生が臨床実習中に一日見学に来ます。簡単な技工をやって貰うこともあります。学生さん達の間では、なかなか好評のようです。最近の歯学部の学生は技工をする時間があまりないので、かえって新鮮な感じなのかも知れません。

今年の4月より副院長の佐藤裕二教授が技工室責任者に就任され、技工室をより良い方向に改善する様に努力されています。我々もそれに応えてゆきたいと思えます。

室長 山口 昌治



6月の講習会開催予定

日時:6月18日(水) 18:00～19:30

場所:昭和大学歯科病院 第1・第2臨床講堂

演題・講師:「医療法と薬事法改定で医療機器の取り扱いがどう変わるのか」

日本光電株式会社 品質管理本部 安全管理部 中川 誠 氏、横山 清登 氏

「手指衛生」 昭和大学病院看護部 看護師 中根 香織 氏



山口県～金子文英堂～

食中毒にご用心!!

栄養科 鴨志田 聡

雨がしとしと降り続き気温も上昇、うっとうしい日本の梅雨。この時期に活発な活動を開始するのがいわゆる食中毒菌です。細菌は高温多湿を好むため、梅雨の時期から9月にかけては食中毒の発生が最も増える季節です。食中毒を防ぐには手洗いすることが重要です。食事を作る前には必ず石鹸を使って十分な手洗いを行ない、調理中にも、生もの(生肉・生魚)などに触った場合には、また石鹸で手洗いしましょう。野菜や調理済み食品を切るまな板と、生肉・生魚などを切るまな板を換えることによっても調理時の細菌汚染を減らすことができます。また、食品を切った後の包丁は洗剤をつけて柄の部分までしっかり洗うことも重要です。食事は多く作り過ぎずに1回で食べ終わる量だけ作るように心掛け、作った食事はなるべく早くお腹の中に入れてしまいましょう。残った食事は冷蔵庫の中にしまっておいても徐々に細菌が増えていくことを忘れないで下さい。とくに満杯状態の冷蔵庫では冷気は庫内を循環せず、ただの食料庫となってしまいます。雨で外出できない休みの日に冷蔵庫を掃除してみてもいいかがですか。賞味期限・消費期限のきれた食品が何日間・何ヶ月・何年? 冷蔵庫に眠っているものはありませんか、思い切って処分しましょう(私も頑張っせと片付けています(^_^))。

最後に食中毒予防の三原則

- 「つけない」 調理の際には指輪や腕時計をはずし石鹸で良く手洗いしましょう
- 「増やさない」 食品を常温で長い間放置しない
- 「殺す」 十分加熱して細菌を死滅させる



歯科医療最前線：イビキにご注意！ 閉塞性睡眠時無呼吸症候群について

口腔リハビリテーション科 高橋 浩二

ご意見・ご要望について

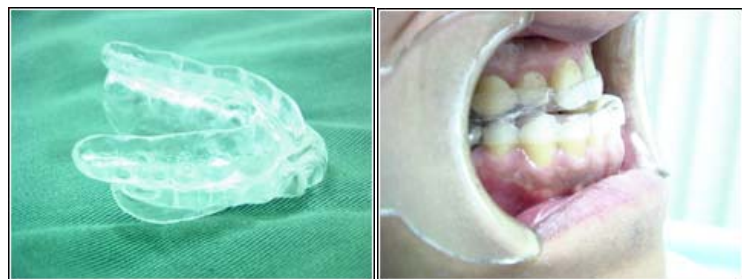
中に空気の通り道である上気道が閉じてしまうため、呼吸が何回も止まります。日本人ではおよそ40人に一人くらいの割合にいるといわれ、大きなイビキや夜間の不眠、肥満、起床時の頭痛、日中の強い眠気などの症状があります。

これらの症状のうち日中の眠気のために仕事に支障をきたしたり、居眠りによる事故が発生するなど社会生活上重大な悪影響を引き起こし、最近マスコミでも注目されるようになりました。睡眠時無呼吸症候群を放っておくと高血圧症や虚血性心疾患や脳血管障害などの合併症も起こるといわれています。大きなイビキの方や日中眠気が強い方はご注意ください。

当院では閉塞性睡眠時無呼吸症候群の診断は総合内科で行っています。治療としては総合内科では経鼻的持続陽圧呼吸装置(nCPAP 写真)による治療や口腔リハビリテーション科では口腔内装置(写真)による治療が行われています。



経鼻的持続陽圧呼吸装置



口腔内装置

みなさまからお寄せいただいた貴重なご意見・ご要望は、病院長および関連部署へ報告しております。改善すべき点や取り入れたほうが良いこと等できる限り対応したいと考えております。今後もお気づきの点やご要望をお聞かせください。

診療日時のお知らせ ハガキについて	「診療日時のお知らせハガキの記載内容がまぎらわしい」とのご意見をいただきました。現在、明瞭なものへと改訂するために院内にて様式等の見直し検討を行っております。
担当医の交代について	「前任者の退職に伴う担当医の引き継ぎがなされておらず、予約日に来院するも受診ができなかった。また、事前に説明もなく担当医が若手に交代していた」とのご意見をいただきました。大変失礼いたしました。新患で来院時に予め担当医以外、臨床研修医等が診察する場合がある旨を十分にご説明・ご納得いただいたうえで交代いたします。

編集後記

6月1日より歯周病科科長山本教授より引継ぎ、歯科病院広報委員長を拝命しました。岡野病院長のご指導の下に歯科病院の広報活動を展開してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。「歯科病院だより」では患者様にできるだけわかりやすい情報をご提供することを最優先とし、合わせて地域歯科医師会や病院など地域医療組織、施設への情報発信としての役割も担えればと考えています。また病院スタッフの情報交換などにも役立てたいと思っています。新しい企画としては「歯科医療最前線」のコラムを設け、患者様に役立つ情報を連載してまいります。手始めに今月号は口腔リハビリテーション科から睡眠時無呼吸症候群についてお伝えしました。広報活動としては、今後「歯科病院だより」のほか、歯科病院ホームページの刷新や歯科病院受付のテレビ放映コンテンツの充実なども進めて行きたいと思っておりますので、ご支援下さいますよう宜しくお願い申し上げます。(K.T記)

